



人口減少下でも持続可能な「まちの形」と「暮らし方」に関する総合的研究と実践

法文学部 准教授 飯野 公央

日本の地方都市は戦後の人口減少と経済成長を背景に郊外へと拡散していきました。それに伴い人々の生活を維持するための道路や上下水道といった社会インフラの整備も進みますが、最も大きな変化は人々が過度のマイカー依存の暮らし方を選択し、行政もそれを前提にまちづくりを進めたことです。これは暮らしやすいまちをどう作るかという都市計画よりも、住宅取得やマイカー購入が経済成長に果たす役割の方を優先した結果です。ところが低成長と人口減少等により地方財政が逼迫すると、老朽化したインフラの更新問題や買い物難民への対応など、持続可能な「まちの形」とそこでの「暮らし方」を問い直さねばなりません。

飯野研究室では、過度なマイカー依存から脱却し、公共交通中心のまちづくりや社会インフラ・公共施設等の立地適正化問題に取り組み、人口減少の中でも豊かに暮らせるまちづくりの研究と普及・啓発に向けた実践活動を行っています。

第2号 3 K 新聞 平成24年10月10日

松江バス利用者数の推移

年度	利用者数(人)
91年度	900
92年度	772
93年度	688
94年度	597
95年度	511
96年度	432
97年度	351
98年度	271
99年度	191
00年度	111
01年度	131
02年度	151
03年度	171
04年度	191
05年度	211
06年度	231
07年度	251
08年度	271
09年度	291
10年度	311
11年度	331
12年度	351
13年度	371
14年度	391
15年度	411
16年度	431
17年度	451
18年度	471
19年度	491
20年度	511
21年度	531
22年度	551
23年度	571
24年度	591
25年度	611
26年度	631
27年度	651
28年度	671
29年度	691
30年度	711
31年度	731
32年度	751
33年度	771
34年度	791
35年度	811
36年度	831
37年度	851
38年度	871
39年度	891
40年度	911
41年度	931
42年度	951
43年度	971
44年度	991
45年度	1011
46年度	1031
47年度	1051
48年度	1071
49年度	1091
50年度	1111

年代別平均年間バス利用者数の比較

年代	利用者数(人)
10代	10
20代	20
30代	30
40代	40
50代	50
60代	60
70代	70
80代	80
90代	90
100代	100

数字にみる利用者数の変化

松江市でバス利用者の減少傾向が顕著な理由として、マイカーの普及、高齢者の増加、バス路線の縮小などが挙げられる。また、バス利用の利便性の向上や、バス利用の魅力を高めるための取り組みも進められている。

ひと月400円がバスを乗ろう！?

松江市のバス乗車料金が、ひと月400円に引き上げられることになった。これは、バス利用の促進を図るための施策の一つとして、バス利用の魅力を高めるための取り組みの一環として進められている。



公共交通の利用促進の一環としてバスの利用マナーを自作の紙芝居での啓発するゼミ生 (左：イオン松江店、右：バス祭り会場)



公共交通の重要性を啓発する研究室発行の3K新聞

いち早く人口減少に直面した海士町の公共施設総合管理計画の取り組みを調査するゼミ生